

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2022. 12
No.352

2022年一年 社員の皆さんに感謝

社員の皆さん、2022年も暮れようとしています。今年一年大変ありがとうございました。

コロナ感染が未だ収束せず、ロシアによるウクライナ侵略という第二次世界大戦以降もう二度とないと思っていた戦争が起き、信じられない事が起こっています。

又、自動車業界においても、半導体不足という、世界のトヨタ様でもコントロールできなく、減産を余儀なくされているのが現状です。考え方によっては2008年リーマンショックよりもひどい経済状態が起こっていると私は認識しています。

今後はさらに日本経済が疲弊し、生き残る会社と倒産する会社が今から数年にかけて

大量に起こるかと考えています。補助金がある間は良いのですが、補助金も永遠に続くものではありません。金融機関も融資したお金を回収しなければなりません。その時、補助金頼みの企業に返済能力があるわけがありません。その結果倒産するのです。政府の使っている補助金も全て我々の税金です。政府資金がなくなれば必ず増税です。だから今、最善の努力を重ね強靱な企業体質を作っておかないと将来はないわけです。

経常利益は黒字見通し

そんな中、イナテックの2022年度の経営指標の着地は、営業利益では赤字でしたが経常利益ベースでは一応黒字で通過しそうです。

これも皆さんの努力の賜物と感謝申し上げます。

2022年度の反省

〈出来た事〉

- ・安全同質化が良い方向に向かい出しました
- ・グリーンリカバリー事業を利用したCN(カーボンニュートラル)に向けた活動を開始できました
- ・生産調査課が入り込んだTPS活動ができました
- ・新キヤスティングファクトリーが本格稼働し非自動車売上拡大の準備ができました
- ・製造部実績原価の見える化ができてきました

〈出来なかつた事〉

- ・お客様への流出不良を低減させる(真因対策不足)
- ・出来高・可動率・不良率・故障の改善遅れが目立つた
- ・売上高変動(特に減少)時に変動費が下げられなかつたことと、固定費削減に繋げることができず、損益計算書(P/L)の数字を良くすることができなかった

以上が2022年度の反省事項です。2023年度でやらねばならない事が見えてきました。

2023年度ご報告

- ・固定費削減のための自動化・ロボット化を早急に推進すること
- ・工程内不良のゼロ化事例を増やすこと
- ・品質保証度をレベル4に向けてのゴールとロードマップを確定させること
- ・IoTの積極的活用により、不良未然防止、故障の予知予防対策管理に結びつけて不良を減らし、可動率を向上させ利益を出す(P/L改善)こと

これらが2023年度にやらねばならないこととです。

品質保証と営業の体質強化

品質保証責任者に社長執行役員として私(稲垣良次)が就任いたします。また、営業の執行役員も専任とし、稲垣現氏を抜擢させていただきます。

品質からイナテック体質を大変革することと、営業一部・二部の連携を強化し非自動車売上とEV部品を拡大しながら売上高の

安定向上を目指すものです。

2023年もやるべきことをしっかりとやり遂げれば必ずイナテックにとつての未来は見えてきます。

社員の皆さんの御理解と御協力をお願いいたします。

『社員の皆様へのメッセージ』をなぜ書き始めたのか

当初は『従業員の皆様へのメッセージ』でした。そして第一号は1993年(平成5年)9月2日フィンランド・ノルウェー出張の時でした。

そのタイミングは、社長に就任して3年目になります。それまでは、毎週月曜日の朝に本社幡豆工場に出社している皆さんの前で朝礼を10分間くらいスピーチするのが専務時代からの習慣で、何も疑問に思うすべもなく実行しておりました。

ある日の日本経済新聞の小さな記事で、この会社の会長さんか忘れましたが、毎月従業員さん向けに『メッセージ』を書いている。

という記事を読み、なぜか心に残り考えるようになりました。

それは、その時の社員さんは150名くらいでした。工場は本社幡豆工場・米津工場・平坂工場と3工場に分かれており、3直制勤務体制でした。

よくよく考えてみると、私が毎週朝礼をしている対象の社員さんは、本社幡豆工場の昼勤の方に対してのみ行っていることになりました。つまり本社工場の時差・夜勤の方と、米津工場の方・平坂工場の方は聞いていないのです。こんなこといいのかと自問自答を繰り返しました。

尚且つ、(こんな失礼な話はないのですが)その時思っていた事や、お客様の話、新聞の話等々、一所懸命やっていました。他工場の人に伝わらず、また「言葉」というのは消えてしまうので証拠はなし、「そんな無責任なことでもいいのか」と自分に問いかけたことがきっかけでした。

また当時の番頭さんに相談したところ、「間違いなしに1回/月というのは続かないからやめたほうが良い」とアドバイスを頂きましたが、諦めずに決断をいたしました。

これは自分自身に対するプレッシャーとして、
今までの「続かない」という性格を変えるこ
とに挑戦しよう」と決心した次第です。

それが今ではNo.352までやり続けるこ
とができています。これらも社員の皆さんが
読んで頂き、私の背中を押して下さいてい
うからだと思います。

私の造語で「小さく産んで永く続ける」そし
てその結果が「継続は力なり」になるのだと信
じて実行しております。

75歳で菜根譚後集が終了いたします。今
は一応そこで筆を置きたいと考えております。
それまでは頑張りますので皆さん宜しくお
願いいたします。

『社員の皆さんへのメッセージ』誕生秘話でし
た。

皆様今年も大変ありがとうございました。
来年もより良い年になりますよう、お祈りい
たします。

来年もご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い
いたします。

菜根譚後集

八三

意所偶會、便成佳境、物出天然、纔見真機。若加一分調停布置、趣味便減矣。白氏云、意隨無事
適、風逐自然清。有味哉、其言之也。

ふとわが心になつたところが、それこそ佳境であり、人為を加えない天然のままな物にこそ、
真の妙趣が発見される。もし、ほんの少しでも人工的な作為を加えたならば、妙趣はそれだけ減
つてしまうものである。白樂天の詩にも、「こころは無事であるときが楽しく、風は自然に吹い
て来るのがさわやかである」と言っている。なんと味わいのある言葉ではないか。

- 30 -
